

# 隙のある空間

ふとした瞬間に見える都市の表情

指導教員 吉松秀樹教授 印

7AEB2111 田口 慧

## 1. 問題意識

人のもつ隙に興味を抱いた。隙は負のイメージをもたれがちではあるが、魅力的な人には隙があるように良い意味で捉えられることもある (fig.1)。都市にもそのような隙があるのではないかと考える。



fig.1 マイナスとプラスの隙

## 2. 分析 - 隙

隙は表面上の付き合いでは気が付きにくく、他人と距離を近づけることで初めて気がつくのである。隙は少ないほど魅力的で、逆に隙が有り過ぎると本来の魅力を失ってしまう (fig.2)。また、ツンデレのデレがかいま見えた瞬間やふとした瞬間も隙ではないかと考える (fig.3)。



fig.2 隙の割合

fig.3 ふとした瞬間

## 3. 分析 - 都市

複数の都市を調査した結果、渋谷=109 のように渋谷には渋谷、都市には都市を想像させるイメージ、表情や性格があると思う (fig.4)。また、ふとした瞬間にその都市とは想像できない空間があった (fig.5)(fig.8)。それは都市における隙なのではないか。逆に整備をされている都市(大手町や田園調布など)は規則的で単調であるため魅力的ではなく、隙がないと感じた (fig.6)。また、同類の建物が並ぶ住宅地では個性的な住宅は住宅地の隙であるとも言えるのではないかと考える (fig.7)。



fig.4 表面上のイメージ

fig.5 渋谷の隙

fig.6 隙がない都市

fig.7 住宅の隙



fig.8 都市の隙

## 4. 手法・モデル化

隙の特徴から外部からは予想できない内部空間の表情モデルを作成する。距離を縮め、相手を知る事で隙に気付く。内部と外部の空間の差から隙を感じる (fig.9)。



fig.9 外部と内部の隙

内部と内部の空間の差によってできる隙のモデルを作成するやわらかな光の表情がうつろう部屋と表情のない廊下。異なる光の空間の差から隙を作り出す (fig.10)。

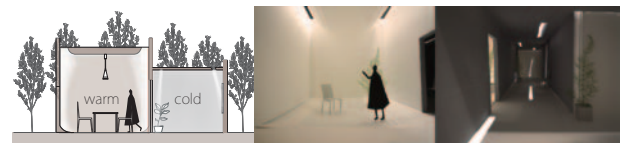


fig.10 空間の差から生じる隙

## 5. 提案

2つのモデルから双方の特徴を持つ隙のデレツン住宅を設計する (fig.11)。本来通路としてしか使われない廊下をツンである隙とし、光の差によって心を切り替える空間とする (fig.12)。また、各部屋では光の移り変わる表情の変化を感じる。外部から内部へ移る事で隙も移り変わる (fig.13)。

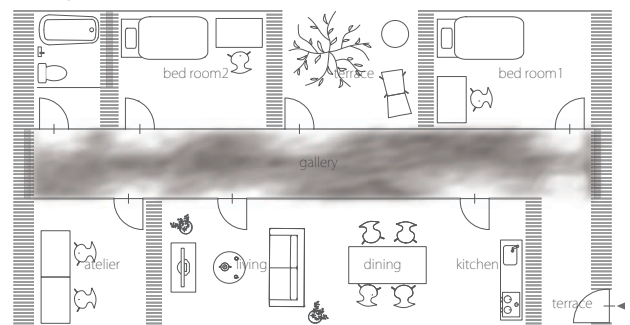


fig.11 site plan



fig.12 空間差

fig.13 外部と内部の差